

2021年6月11日

報道機関 各位

被ばく医療総合研修センター開所式について

1. 開催目的

長崎大学は、平成27年（2015年）に原子力規制委員会から「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」に指定されました。

原子力災害時には、原子力災害拠点病院で対応できない高度専門的な診療を行うとともに、原子力災害拠点病院等へ原子力災害医療派遣チームの派遣やその調整を行います。平時には、国、県、関連医療機関等とのネットワークの構築や、中核的人材の育成に必要な教育、訓練を行う役割を求められております。

その役割を果たす新たな拠点として「被ばく医療総合研修センター」が6月に開所いたしましたので、以下のとおり開所式をご案内いたします。

2. 開催日

令和3年6月24日(木) ※式次第は別紙参照

3. 開催場所

長崎大学被ばく医療総合研修センター（長崎大学病院敷地内）※別紙参照

4. 出席者予定

(1) 来賓

- ①原子力規制委員会 委員長 更田豊志 様
- ②原子力規制委員会 委員 伴 信彦 様
- ③量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所長 山下俊一 様

(2) 長崎大学

- ①学長 河野 茂
- ②理事（財務・施設担当）平野浩之
- ③原子力災害対策戦略本部長 中尾一彦
- ④高度被ばく医療支援センター長 田崎 修
- ⑤原子力災害医療・総合支援センター長 高村 昇

5. 参加申し込み

(1)

参加をご希望される方は、（別紙）参加申込書により、令和3年6月17日（木）までにメールにてお知らせください。1社から複数名（カメラマン等含む）参加される場合は、全員についてご記載ください。

(2) 申し込み先: ner@ml.nagasaki-u.ac.jp

6. 注意事項

別紙を必ずご参照ください。

【お問い合わせ】

長崎大学原子力災害対策戦略本部事務局

TEL: 095-819-8536 E-mail:ner@ml.nagasaki-u.ac.jp

<式次第>

- ・ 12:40 開会
 主催者挨拶 長崎大学学長 河野 茂
 来賓挨拶 原子力規制委員会 委員長 更田豊志 様
 量子科学技術研究開発機構 放射線医学研究所長 山下俊一 様
 祝電紹介
 施設紹介（動画）
- ・ 13:10 テープカット
- ・ 13:25 メディア向け施設案内（オリエンテーション後、班別内覧）
- ・ 15:00 囲み取材

<注意事項>

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止策として、当日はマスクの着用、手指消毒、検温にご協力をお願いいたします。
- ・ 令和3年6月11日（金）から当日までに長崎県外への移動がある方は、別途「健康状態管理シート」のご提出を依頼いたします。
- ・ 式典は雨天決行といたしますが、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、オンライン開催とする場合がございます。
- ・ 本式典がオンライン開催となった場合、15時からの囲み取材は行いません。
- ・ 駐車場の準備はございません。
- ・ 当センターは病院敷地内にはございますが、病院建物への立ち入りはご遠慮ください。

<開催場所>

被ばく医療総合研修センター

※病院内立入禁止

被ばく医療総合研修センター

大学病院正面玄関

①病院正面玄関には入らず右折

②真っ直ぐ進む

③真っ直ぐ進む

④白い建物が「被ばく医療総合研修センター」

⑤一番奥(突き当り)まで進む

⑥突き当り右側が入口

12時20分までに

被ばく医療総合研修センターについて

1.被ばく医療支援センター開所の背景

長崎大学は、2015年に原子力規制委員会から「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」に指定されました。指定にあたっては、東日本大震災により引き起こされた福島第一原子力発電所事故の経験をふまえて、平時は主に高度専門教育研修を行うとともに、原子力災害時には原子力災害拠点病院では対応できない高度専門的な診療及び拠点病院などへの医療支援を行います。また、平時から関連医療機関とのネットワークの構築を行うとともに、原子力災害時には原子力災害医療派遣チームの派遣調整を行うことが施設要件として求められています。

そのため、平時からの被ばく医療の中核的人材の育成を目的として当センターは開設されました。

2.センターのミッション

全国の原子力災害拠点病院の医療関係者と緊密な連携を図り、原子力災害時の医療体制の構築支援を推進する。このミッションのもとに大学病院の敷地内に開設された当センターでは、被ばく医療に対応する設備機器を整備することで、より充実した高度専門的な教育研修が可能となりました。

3.設備について

・初療重傷者処置室

治療の重要度・緊急度傷病者の重症度と治療の緊急度を判断するトリアージ室を経て、身体に付着した放射性物質を除染洗浄する除染室から、初療・重傷者処置室へとスムーズな動線で初期対応を行う。

・ホールボディーカウンター室

一人あたり2分という短時間の測定で、およそ150ベクレル以上の体内放射能を検出することができます。どのような放射性物質がどれだけ体内に入っているかを知ることにより、内部被ばく線量を正確に評価することが可能。

・カンファレンス室

国、地方自治体、他の支援センターなどをオンライン会議で繋ぐ、統合原子力防災ネットワークシステムを備えており、有事の際には原子力災害対策本部ともなります。

・多目的研修室

最大で56名を収容でき、対面とオンラインのハイブリッド型の研修体制が可能です。

・生物学的線量評価室

放射線被ばくでは、DNAの集合体である染色体の異常頻度と放射線量に相関関係があることから、染色体異常頻度が被ばく線量の推定に用いられます。ここでは、処置室で採取された血液などの生体試料から、線量評価用の標本作成を行います。作成した標本は、標本分析室に整備された自動化顕微鏡システムを用いて、撮影・分析を行い、被ばく線量を推定します。

・派遣チームラウンジ

医療対応が長期化した場合に備え、原子力災害医療派遣チームが待機、休息をとるための部屋です。

・被ばく医療実習室

実際の手術室を転用した被ばく医療実習室が置かれ、より実践に即した実習を行います。

被ばく医療総合研修センター
Radiation Emergency Medical Training Center

3F

被ばく医療実習室

2F

標本分析室
派遣チーム
ラウンジ

原子力災害対策
戦略本部事務局

カンファレンス室

生物学的
線量評価室

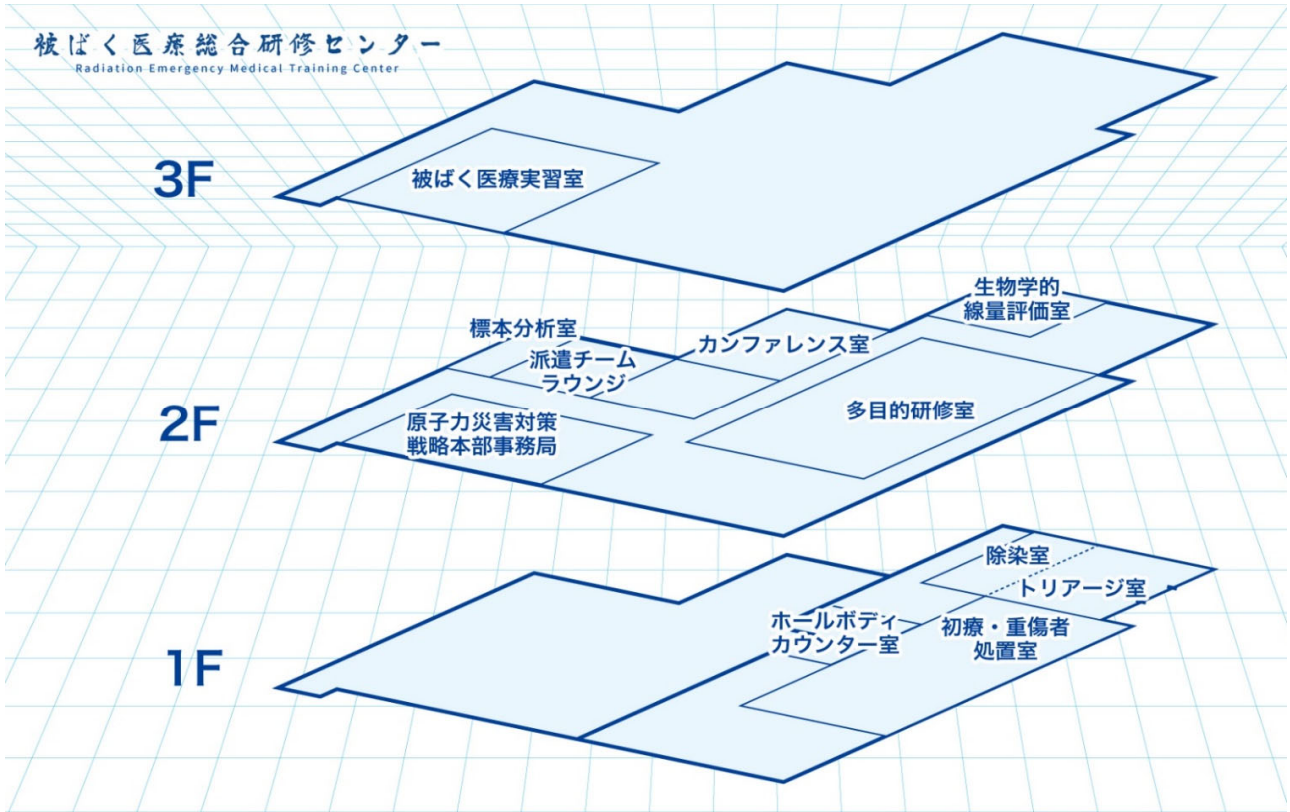
多目的研修室

1F

ホールボディ
カウンター室

除染室
トリアージ室

初療・重傷者
処置室



(別紙)

報道用

<参加申込書>
被ばく医療総合研修センター開所式

誠にお手数ですが、ご参加いただく方全員（カメラマン等含む）について以下をご記入ください。

参加者一覧

	社名	氏名	電話番号	E-mail	6月10日（木）以降の長崎県外移動の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					

※ 上記個人情報は、本式典の連絡等以外には利用いたしません。

※ 「6月10日（木）以降の長崎県外移動」に有とご回答された方へは、別途「健康状態管理シート」のご提出を依頼いたしますのでご了承ください。

ご回答先 : ner@ml.nagasaki-u.ac.jp
ご回答期限 : 令和3年6月17日（木）